PART3　入試頻出動詞・音便

★「活用の行」を覚えておくべき動詞九個

○射（い）る・鋳（い）る＝　　行上一段活用
○**得（う）**・心**得（こころう）**・所**得（ところう）**＝　　行下二段活用
○植（う）う・飢（う）う・据（す）う＝　　行下二段活用
○老（お）ゆ・悔（く）ゆ・報（むく）ゆ＝**ヤ行**上二段活用

問六　傍線部a・b・c・d・eの動詞の活用の種類として最も適当なものを、次の①～⑩の中から一つずつ選べ。ただし、同じ番号は一度しか選べない。

植ゑ(a)などしたりけり。
営み　ゐ(b)たり。
鶯のまだ　見え(c)ぬは。
心も　得(d)ぬことかな
射(e)落として侍り

①　ア行四段活用　②　ア行上二段活用　③　ア行下二段活用　④　ハ行四段活用
⑤　マ行上一段活用　⑥　マ行下二段活用　⑦　ヤ行上一段活用　⑧　ヤ行下二段活用

⑨　ワ行上一段活用　⑩　ワ行下二段活用

a＝　b＝　c＝　d＝　e＝

問七　次の二重傍線部の動詞a「老い」・b「損なは」の活用の種類と、活用形を記せ。

年老い[a]たる女房の、「あれは御腹の損なは[b]せ給へるを、…

a＝

b＝

★活用の種類が「四段」と「下二段」の二種類ある動詞→**「訳し方の違い」**がある。

四段＝そのまま訳す
下二段＝四段の意味＋「　　　　」

（例）「入（い）る」
　四段＝中にはいる。
　下二段＝（中にはいらせる→）中に入れる。

※入試頻出の「二種類ある動詞」三個

○「被(かづ)く」
四段＝かぶる・褒美をいただく
下二段＝かぶせる・褒美を与える

○「頼む」
四段＝頼みにする・あてにする
下二段＝頼みに思わせる・あてにさせる

○「慰む」
四段＝心が晴れる
下二段＝（心を晴れさせる↓）慰める

問八　「頼めて」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　頼りにして　　イ　期待させておいて　　ウ　なんとかして　　エ　ひたすらお願いして

★終止形が一文字の動詞

来　す　得　寝　経

音便

発音しやすいように、別の音に変化する現象のこと。

（例）書**き**て→書**い**て　＝「**イ**音便」という。

【動詞】

○イ音便「き・ぎ・し」→「い」

○ウ音便「ひ・び・み」→「う」　（例）買**ひ**て→買**う**て

○**促音**便「ひ・ち・り」→「つ」　（例）買**ひ**て→買**っ**て

○**撥音**便「に・み・び」→「**ん**」　（例）飛**び**て→飛**ん**で

ラ行変格活用連体形活用語尾「**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）あ**る**なり→あ**ん**なり→あなり

第２講　PART3　確認問題

①　A・Bの傍線部分の動詞「かづき」・「かづけ」の意味として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

A「頭（かしら）にかづきたれば、…」
B「頭にかづけたれば、…」

ア　かぶる・かぶせる　　イ　掲げる・かぶせる　　ウ　かぶる・掲げさせる　　エ　掲げる・掲げさせる

②　A・Bの傍線部分の動詞「頼め」・「頼み」の意味として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

A「頼めぬ人は来たり、…」
B「頼みたる方の事は違（たが）ひて、…」

ア　あてにさせる・あてにする
イ　あてにならない・あてにする
ウ　あてにする・あてにさせてくれない
エ　あてにならない・あてにさせる
オ　あてにならない・あてにさせてくれない

③　A・Bの傍線部分の動詞「慰み」・「慰め」の意味として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

A「腹立たしきことも慰みけり。」

B「悲しきことも慰めけり。」

ア　心が晴れる・憐れむ　　イ　憐れむ・慰める　　ウ　心が晴れる・慰める　　エ　慰める・憐れむ

④　空欄A・Bに入る最も適当な語の組み合わせを、次の中から選べ。なお、Aは「中にはいる」という意味を、Bは「中に入れる」という意味を表す文意となる。

「わが［A］むとする道は…」

「わが［B］むとする物は…」

ア　入(い)れ・入(い)り　　イ　入(い)る・入(い)り　　ウ　入(い)ら・入(い)る　　エ　入(い)ら・入(い)れ　　オ　入(い)る・入(い)れ

⑤　ア～エの文節中に含まれている動詞のうち、終止形が一文字にならないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　得(え)たり　　イ　覚(おぼ)ゆれば　　ウ　経(へ)ず　　エ　寝(ね)て

第２講　ＰＡＲＴ３　解答

問六　a ⑩　b ⑨　c ⑧　d ③　e ⑦

問七　a ヤ行上二段活用・連用形　b ハ行四段活用・未然形

問八　イ

第２講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「被（かづ）く」は同じ語形で活用の種類が二種類ある動詞である。Aは連用形が「かづき」とイ段になっているので四段活用であり、「かぶる・褒美をいただく」という意味となる。Bは連用形が「かづけ」とエ段となっているので下二段活用であり、「かぶせる・褒美を与える」という意味となる。

② 「頼む」は同じ語形で活用の種類が二種類ある動詞である。Aは未然形が「頼め」とエ段になっているので下二段活用であり、「頼みに思わせる・あてにさせる」という意味となる。Bは連用形が「頼み」とイ段となっているので四段活用であり、「頼みにする・あてにする」という意味となる。

③ 「慰む」は同じ語形で活用の種類が二種類ある動詞である。Aは連用形が「慰み」とイ段になっているので四段活用であり、「心が晴れる」という意味となる。Bは連用形が「慰め」とエ段となっているので下二段活用であり、「（心を晴れさせる→）慰める」という意味となる。

④ 「入（い）る」は同じ語形で活用の種類が二種類ある動詞である。四段活用の場合、そのままの意味（「はいる」）で訳し、下二段活用の場合、四段の意味に「させる」という意味を付け加えて（「はいらせる→入れる」）と訳す。

⑤ 終止形が一文字の動詞には、「来（く）」（カ行変格活用）・「す」（サ行変格活用）・「得（う）」「寝（ぬ）」「経（ふ）」（下二段活用）などがある。「覚（おぼ）ゆれば」は、「覚（おぼ）ゆ」という下二段活用の動詞の「已然形＋ば」の形である。

〔解答〕

①　ア

②　ア

③　ウ

④　エ

⑤　イ